

こども環境学会 2021 年大会（長野）実施報告

島崎直也（こどもヘンテコまほうラボ）

The Report of Association for Children's Environment 2021 Conference (Nagano)

Naoya Shimazaki (Kodomo henteko mahou labo)

要旨: 近年、子ども達の成育環境は深刻化している。子ども達の成育環境を考える学会「こども環境学会」の全国大会を佐久市と共催し、佐久平交流センターを会場に開催した。最初に、こども環境学会や全国大会の概要について紹介し、2021 年大会（長野）のテーマや内容について紹介した。更に、分科会を通じて得た知見のいくつかについて、大会提言として 4 つにまとめたものを紹介した。今後も、より多くの大人が、子ども達の成育環境を考えるきっかけをつくっていくことが重要である。

キーワード: 子ども、成育環境、学会

Keywords: Child, Nurturing Environment, Academic Conference

I. はじめに

こども環境学会の全国大会「こども環境学会 2021 年大会（長野）」を 2021 年 7 月 2 日（金曜）、3 日（土曜）、4 日（日曜）の 3 日間、長野県佐久市を主な会場として実施した。佐久市と共催し、筆者が大会実行委員長として、長野県内の行政関係者、医療関係者、教育関係者などと一緒に、実行委員会を組織し運営をした。当初、2020 年 7 月に開催する予定で、2019 年 11 月にプレ大会を実施し、準備を進めていたが新型コロナウイルス感染拡大の影響で、開催が延期となり、1 年後に開催することとなった。2020 年 11 月に再びプレ大会を開催するなど全国大会の県内外への周知を進め、全国大会では会場・オンライン合わせて、国内外から約 420 名にご参加いただいた。プレ大会、全国大会はともに、緊急事態宣言は出ていなかったものの、全国各地で新型コロナウイルス感染者数が多い時期であったため、会場参集は人数を絞り、オンラインでの参加を中心にしたハイブリッドで開催した。本報告では、こども環境学会がどのような学会であるのかを述べ、引き続き、大会の内容などについて報告する。

II. こども環境学会・全国大会の概要

1. こども環境学会について

公益社団法人こども環境学会（事務局：東京都港区）は、2004 年に設立された、学問の領域を超えて、子どもを取り巻く環境＝「こどもの環境」の問題に関心や関わりのある研究者や実践者が集い、共に研究し、提言をし、実践してゆくなかで、子どもの成育に寄与する環境科学を確立し、子どものためのよりよい環境を実現することを目的とし、教育・啓発事業、研究・評価事業、資格認定・顕彰事業を行っている学会である。代表理事は、新広島市民球場、長野県立武道館などの設計で有名な日本を代表する環境建築家である仙田満氏。仙田氏は、50 年以上子どもを育む施設や設備の設計にかかわり、子どもの成育環境の研究とデザインをしている。

2. こども環境学会 全国大会について

2004 年の学会設立以来、毎年 1 回、開催地を変え全国大会を行っている。直近 5 回の会場は、開催順に、福島県福島市、富山県富山市、北海道恵庭市、埼玉県川越市、福岡県北九州市である。今回、2018 年度（第 14 回）こども環境学会賞にて、長野県の「信州型自然保育（信州やまほいく）認定制度」が、こども環境・自治体施策賞を受賞したことをきっかけに、長野県内で全国大会を

開催することとなった。各大会は、開催地で実行委員会を組織し、運営をしている。大会ごとにテーマを決め、子どものためのより良い育成環境について、全国各地の研究者や実践者などが集い、議論をする場となっている。直近5回のテーマは、「子どもが元気に育つ復興まちづくり」「こどもと地域力」「遊びで育つこどもたち」「こどもは未来」「こどもにやさしいまちの居場所」である。

Ⅲ. 2012 年大会のテーマと内容

1. 2021 年大会（長野）のテーマ

子ども達の SNS 依存やゲーム依存が問題になっているように、近年、子ども達の育成環境は変化している。子ども達が自然の中で遊ぶ機会が少なくなっており、自然に囲まれた信州の子ども達も、同じような傾向である。一方で、自然保育が増え始めている。子ども時代に、自然の中で遊び、自然とともに暮らすことで、生きる力を育むことができる。自然豊かな信州を会場に、自然と子ども達の関係について、子ども達の育成環境に関わる、遊び・教育・保育・医療・福祉・建築等、様々な分野の実践者・研究者の方々に、それぞれの視点や、優れた事例などをご紹介頂き、より多くの人達と話し合っていきたいという思いから、2021 年大会（長野）の大会テーマを「自然とともに暮らすこども～生きる力を育むには～」とした。

2. 内容

7 月 2 日のエクスカッション以外は、佐久平交流センターを会場とした。3 日間を通して、会場参集とオンライン参加のハイブリッド形式で実施をした。大会プログ

ラムを図 1 に示す。

各大会プログラムの内容についてご興味を持たれた方は、公益社団法人こども環境学会発行『こども環境学研究第 17 巻・第 2 号（通巻第 48 号）』の、学会活動報告こども環境学会 2021 年大会（長野）に詳細が掲載してあるので、是非、ご参照頂きたい。本稿では、筆者が話題提供者とコーディネーターを務めた分科会 1【表現「こどもが力を発揮する環境」】について紹介する。

本大会では、分科会「こどもの暮らしと環境（こどもが自然でいられる環境）」と題し、こどもが自然でいられる環境と、こどもと自然環境の両方をテーマに、以下の 4 つの分科会を設定し、実施した。

- ・分科会 1【表現「こどもが力を発揮する環境」】
- ・分科会 2【災害「こどもと災害」】
- ・分科会 3【学び「こどもの学びの環境」】
- ・分科会 4【健康「こどもと健康」】

1) 分科会 1【表現「こどもが力を発揮する環境」】

分科会 1 では、「こどもが力を発揮する環境」をキーワードに、やまほいくを実践している保育園、様々な体験を提供している図書館、地域での子ども向けワークショップという異なるジャンルでの実践について、話題提供をして頂いた。最初に、筆者からは、長野県佐久地域で実施した様々な、子ども向けワークショップを通して、子ども達の力がどのように発揮されたのかを紹介した。誰もが、素晴らしい力を持っていること、その力に気づいていない子ども達が多いと感じていることを紹介し、子ども達が力を発揮するためには、「人と比べないこと」「今の社会の価値観や職業に当てはめないこと」が重要という提言もした。

会場：佐久平交流センター 長野県佐久市佐久平駅前 4-1	
ハイブリッド方式（★リアル開催 および ★オンライン開催の併用）	
2021 年 7 月	エクスカッション 9:00～14:30（リアルとオンライン）
2 日(金)	■Aコース『やまほいく見学コース』 森のようちえん びびび(軽井沢町)、認定こども園 ちいさな杜(佐久穂町) ■Bコース『学びの環境 小学校見学コース』 軽井沢風越学園(軽井沢町)、大日向小学校(佐久穂町)
3 日(土)	■基調講演: Natural Learning (自然環境を再生し、遊び・学ぶプログラム) ■シンポジウム I 「SDGsへのこども環境～自然に遊び・学ぶ環境が求められる」 ■ポスターセッション ■会員総会 ■学会賞授賞式・記念講演 ■ネット懇話会 & 若者トークセッション
4 日(日)	■シンポジウム II 「5歳児保育のPBL(Project based learning)活動におけるデジタル(ICT)活用に関する実践研究 ―NHKキッズアプリの活用を通して―」 ■シンポジウム III 「新型コロナウィルス禍における子どもを巻き込む環境～アンケート調査結果を踏まえて」 ■分科会: こどもの暮らしと環境(こどもが自然でいられる環境) 1. 「こどもが力を発揮する環境」 2. 「こどもと災害」 3. 「こどもの学びの環境」 4. 「こどもと健康」 ■若者ワークショップ ■総括セッション ■閉会

図 1. 大会プログラム



写真 1. 筆者が使用したスライドの一部（子ども達が活動している様子）

次に、県立長野図書館の朝倉久美氏には、図書館での活動をご紹介頂いた。本の閲覧や貸し出しだけでなく、

知ることの喜びを感じてもらおう「知のフィールド」として、そして学びの格差の是正のために様々な体験を提供していることをお話し頂いた。朝倉氏の「実感のある知の向こう側へ一緒に行きたい」という言葉に象徴されるように県立長野図書館の、子ども達や利用者の人達と一緒につくっていくという姿勢が印象に残った。「(図書館として) 何をしてはいけないではなく、子ども達にとって新しい出会いと発見が促される場であるために、どんな環境をつくれるかを考えるようにしている」という朝倉さんの思いには、子ども達の為に、大人がチャレンジしていくことの重要性を感じた。

長野市長沼保育園の水野辰也園長からは、「やまほいく」についてや、台風 19 号の被害で園舎がなくなった長沼保育園での子ども達の様子について紹介頂いた。子ども達がやってみたいことを自分で選んでやることで自信を持つことができることや、いろいろと体験してみることで立ち止まって考えることが、子ども達にとって重要なお話があった。そして、子ども達が「感じる」ことが許される」「それぞれの感じ方が許される」環境が必要なお話があり、保育者や親など大人の、子ども達への向き合い方の重要性を感じた。

どの実践にも共通するのが「子ども達が、感じる」ことや、やってみることが許される環境」を大切にしていることと、そのために大人がチャレンジしていることだ。

登壇者の方々と会場の皆さんとの議論を通して、子ども達が力を発揮する環境づくりに重要なのは、「子ども達が伸び伸びと体験するためには、どのような環境をつくれば良いのか？」を考え、実現していくために大人もチャレンジし続けることだと強く感じた分科会であった。



写真 2. 分科会 1 の様子

3. 大会の成果と提言

1) 成果

今回、自然豊かな長野県に相応しいテーマ「自然とともに暮らすことも～生きる力を育むには～」で、参加者の皆さんと、子どもと自然環境について考えることができ、さらに現在直面しているコロナ下の子ども達の環境についても考えることができて、とても有意義な大会となった。新聞等で、多くの長野県内の人達に本大会について知っていただくことができたので、これを機に長野県内で、子ども達の成育環境について考える機会が増えることを期待している。

2) 提言

各分科会を通じて得た知見のいくつかについて、大会提言として、以下の 4 つにまとめた。

- (1) 提言 1. 「子ども達が、感じる」ことや、やってみることが許される環境」を大切にし、大人は、その環境をつくるためにチャレンジし続けよう。
- (2) 提言 2. 災害時に備え、日常において、子ども達がかしこく逞しく、自身の命を守りながら生きていくために必要な環境について考え、準備していこう。
- (3) 提言 3. 自然環境を守り活かしながら、子どもが自然でいられる環境をつくっていこう。
- (4) 提言 4. 子どもが自然でいられる環境をつくるために、子どもを取り巻く全ての人と共に、社会の仕組みや、企業の取り組みを推進しよう。

Ⅳ. コロナ下での大会運営について

より多くの人達が集い、子ども達の成育環境について議論をすることが、本大会の目的のひとつであったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、会場に多くの人達を集めてはいけない状況であり、大会運営はとても苦労した。その様な状況下で工夫した点を以下に記載する。

1. エクスカーションもオンライン参加枠を設けて、より多くの人達に参加してもらった。

やまほいくの二つの園を見学するコース、新しい教育実践をしている二つの学校を見学するコースの、両方ともに、とても人気が高く、リアル参加枠は、あっという間に定員に達した。オンラインでの参加枠を設けたこと

で、遠方からも気軽に参加していただくことができ、オンラインの枠も満員となった。

2. 長野県民は、会場参加、オンライン参加ともに、参加費を割引価格（2 日間で 1,000 円）にして参加し易くした。

本大会を機に、長野県内の子どもの成育環境を、より多くの長野県民の人達と考えていきたいと思っていた。手頃な価格だったため、学生も含め、気軽に参加してもらうことができた。

3. 佐久地域などのケーブルテレビやコミュニティラジオ、SNS を活用した告知をし、研究者や実践者以外の一般の人達に開催情報が届く様にした。

「学会の全国大会」というと、一般の人達には、参加の敷居が高く感じ、参加し辛いと思う。一般の人達が目にするメディアを活用し、「学会の会員でなくても参加できること」、「ひとつのプログラムだけでも参加可能であること」、「特にオンライン参加の場合は、好きな時に好きな場所で、気軽に参加することができること」、「研究者だけに関係する話ではなく、大人全員に関係する、子ども達が成長していく環境の話をするということ」などを紹介し、一般の人達への参加を促した。その結果、多様な人達に参加してもらうことができた。

V. まとめ

本大会が、長野県内で、より多くの大人がそれぞれの立場で、子ども達と向き合い、子ども達の成育環境を考

えるきっかけになれば嬉しい。より良い子ども達の成育環境をつくっていくには、より多くの大人が、それぞれの立場で、関わっていくことが重要である。今後も、子ども達の成育環境を考えるきっかけをつくっていきたい。佐久大学信州短期大学部では、2021 年 4 月に、新たに保育士養成の専攻「福祉学科子ども福祉専攻」が開設された。今後、本学を会場に、子ども達の成育環境について学び、話し合う場を、地域の人達に提供していくことで、より地域に貢献できるのではと考える。佐久地域で、より多くの、異なる立場の大人達が、子ども達の成育環境をより良いものにするために協力し活動していくきっかけをつくって行きたいと思う。

なお、本文の写真はすべて、写っている方の承諾を得て掲載しています。



写真 3. 実行委員、ボランティア等の人達との集合写真